

仙台中央署跡地

高額落札に驚き

商店街 開発の具体像に注目

仙台市中心部の「大型物件」とされた旧仙台中央署跡地（青葉区一番町）は二十三日の入札で、はやて特定目的会社（東京）が約百十一億円で落札した。予想を超える高額落札に驚きの声がある一方で、活性化につながる跡地利用を求めてきた地元商店街からは「どんな開発が始まるのか」といった戸惑いも。今後提示される計画の具体像が注目される。（一面に関連記事）

落札価格は県の予定価格の三倍以上。三・三平方メートルあたり約千二百万円を超えた。入札に参加した企業関係者は「約七十億円と踏んでいた。高すぎる」。

不動産業者も「収益性がらみて三・三平方メートルで五百万から六百万円が相場。土地バブルが起きているのかも」と驚きを隠せない。

不動産コンサルタントは「不動産証券化による開発が進み、全国的に魅力的な物件が少なくなっているために高値が付いた。仙台の地価も上昇に転じる可能性がある」と周辺への影響を注視す

仙台市中心部の八つの商店街は一月、公共性の高い施設を求めて、県にその点を考慮した跡地売却を要望した。一番町四丁目商店街振興組合の浦

山良理事長は「落札者の狙いは分からないが、今までの経緯やこちらの要望を伝えたい。今後の計画を説明する機会も設けてほしい」と強調する。

開発業者は「オフィスビルだけでは賃料が安い。商業施設付きになるだろう」。「落札価格が高すぎ、商業施設を運営するとしても、採算を取るには大変」と予測する。

仙台市のビルオーナーは「東北学院中学・高校跡地の再開発に続き、大型投資が行われるのは喜ばしい。中心部活性化のきっかけになってほしい」と期待した。